
 学 会 記 事

第48回膠原病研究会

日 時 平成2年9月4日(火)
午後6時
会 場 有壬記念館

一 般 演 題

1) subacute cutaneous lupus erythematosus
の3例

竹之内辰也・小黒 啓子
野本 重敏・鷺尾かおる
風間 隆・佐藤 良夫(新潟大学皮膚科)

症例1:13歳女。3歳時神経芽腫。平成2年3月初めから頬部に浮腫性紅斑を認め、近医を受診しSLEを疑われ当科を紹介された。白血球3,500,抗核抗体320倍,抗DNA抗体陰性,抗Sm抗体および抗RNP抗体陽性,CH50正常。尿一般検査に異常なし。lupus band testは皮疹部,無疹部ともに陽性。

症例2:20歳女。昭和62年9月頃から顔面上肢,胸部に遠心性に拡大する環状紅斑が出没した。近医でSLEを疑われ当科を紹介された。白血球3,000,抗核抗体320倍,DNA抗体陰性,LE細胞陽性,抗SS-A抗体320倍,CH50正常。尿一般検査に異常なし。lupus band testは皮疹部,無疹部ともに陽性。

症例3:45歳男。既往歴にアルコール性肝硬変あり。平成元年2月頃から右手背に鱗屑を有する丘疹および紅斑が出現し,対側上肢,頭部および上背部に拡大してきた。近医でSLEを疑われ当科を紹介された。白血球数3,400,抗核抗体5120倍,抗ds-DNA IgM 16(正常10以下),CH50 19,C3 34.9,C4 5.6。尿一般検査に異常なし。lupus band test 皮疹部,無疹部ともに陽性。

3例ともSLEの診断基準を満たしていた。認められた皮疹は,症例1と2はannular polycyclic form,症例3はpapulosquamous formのsubacute cutaneous lupus erythematosusと考えられた。

2) 心不全症状にて初発した抗RNP抗体陽性の1例

長谷川 尚・三浦 義明(県立新発田病院)
真山 俊・鈴木 薫(内科)
横山 靖・上野 光博
柄沢 良・殷 安
西 慎一・荒川 正昭(新潟大学第二内科)

著名な心嚢液貯留と心不全症状にて初発し,抗核抗体,抗Sm抗体,持続的蛋白尿を認めたため,SLEを疑われながら,心臓弁膜症および甲状腺機能低下も認められたために,診断が困難だった症例を経験した。症例は67才,女性。1989年7月から息切れ,易疲労感を認め,10月に当院に入院した。軽度の頸静脈の怒張と心尖部収縮期雑音を認めた。リンパ球減少,極く軽度の蛋白尿,血尿,血沈の亢進とガンマグロブリンの増加を認め,心電図は低電位を呈していた。胸部レントゲン写真では,心拡大と胸水を認め,心臓超音波検査で僧帽弁逆流(MR),三尖弁逆流(TR)と大量の心嚢液貯留が証明された。血清学的には,IgG,IgAの増加,補体の低下を認め,抗核抗体陽性,抗ENA抗体強陽性で,抗Sm抗体,抗RNP抗体もともに陽性だった。また,マイクロゾームテスト,サイロイドテストも陽性で,甲状腺機能低下も認めた。MR,TRおよび,甲状腺機能低下による心不全も推測されたが,利尿剤により心嚢液の減少をみても自覚症状の改善がなく,副腎皮質ステロイド薬にて改善し,最終的には,腎生検でメサンギウム基質の増加とMTSが証明され,SLEと診断された。高齢者における心不全の原因として示唆に富む症例として報告した。

3) 神経性食思不振症を合併したSLE女児例の経過

林 三樹夫・田中 篤
平野 春伸・柳本 利夫(国立療養所)
富沢 修一・小沢 寛二(新潟病院小児科)

発症から3年経過したSLEの14歳女児例において,神経性食思不振症(AN:狭義)の合併をみた。本例には,ループス腎炎。膜性型(WHO:V型)の合併とともに,血清学的にBFPや抗カルジオリピン抗体陽性が存在しており,ANの出現とCNS-Lupusとの係わりも想定された。ANにともない,患者には栄養状態の不良,成長ホルモンの高値や甲状腺ホルモンの反応異常が存在した。

ANの病状進行とともに,SLE疾患活動性の低下が認められたが,これは先に述べた患者の低栄養や内分泌学的異常が免疫系に影響を及ぼし,惹起されたものと考え